

シンポジウムⅡ

2. 東北地区高気圧酸素治療セミナーについて

鎌田 桂

(岩手医科大学高気圧環境医学室)

東北地区での高気圧酸素治療は1965年岩手医大に第2種装置が設置されたことがその始まりである。1999年7月現在、46の施設で第1種装置41台、第2種装置3台でHBOが行なわれ、学会員数は1997年11月で医師46名、技師45名である。当地区では1989年福島県での火災事故を経験しているが、その後10年間で23施設が新たにHBOを開始している。治療施設の増加に伴ってHBOに関する種々の問い合わせが増加してきたため、1996年から当施設が主催して、実際に治療を行う技師を対象とした東北地区高気圧酸素治療セミナーを開催した。このセミナーには20施設43名の出席があったが、その際に行ったアンケート調査によると学会主催の技師講習会へ出席した経験をもつ技師は回答の得られた23名中12名で、ほぼ半数は高気圧治療に関して系統的な講習を受けていない事が判明した。この結果、セミナーの継続を痛感し2回目以降のセミナーではHBOの基礎的な事項、初心者として知っておかなければならない事項、治療に際して注意しなければならない事項にテーマを絞り込み、施設間で共通する問題を取り上げ、その対応に基本的な差異が生じないように解決方法を模索してフリーディスカッション形式で討論して来た。セミナーを通じて明らかになった問題点は技師がHBOについて施設の医師を始め周辺から情報を得る機会が極めて少なく、またそれに対する支援も十分ではないため、各自が試行錯誤の状態での治療に当たっている事であった。HBOは事故を起こせば悲惨な結果をもたらす事はこのまでの事例が示している通りであり、より高度の安全性と治療効率が求められる。このためには広域の情報網の整備と共に、時間的、経済的負担の軽減のため各地域での情報交換の場が真に求められる。

シンポジウムⅢ

3. 関東地区高気圧環境医学懇話会の取り組みについて

杉山弘行*1) 恩田昌彦*2) 松田範子*2)
 森山雄吉*3) 古山信明*4) 伊東範行*5)
 勝本淑寛*5) 石原 哲*6) 千葉博史*7)
 山本五十年*8) 早崎光弘*9) 野澤 徹¹⁰⁾
 石黒信雄¹¹⁾ 羽生田義人¹²⁾

*1)東海大医学部総合診療学

*2)日本医大第一外科 *3)日本医大第二病院

*4)千葉大手術部 *5)千葉県救急医療センター

*6)白鬚橋病院 *7)関東病院

*8)都立荏原病院脳神経外科 *9)東京都衛生局

¹⁰⁾荻窪高校 ¹¹⁾誠信 ¹²⁾羽生田鉄工

【取り組みの現状、問題点と展望】高気圧環境医学を軸として、学術的交流を通じて高気圧酸素治療、潜水医学などの各分野の融合を計り、夫々の分野の発展に寄与すると共に臨床的、研究的かつ教育的な面でも社会に貢献できる会を目指す。世話人は14人、内訳医師8人、臨床工学技士2人、業界人2人、ダイバー2人で、その他に顧問をおく。第1回総会は昨年7月25日、第2回は今年6月5日、東京国際フォーラムで開催、現在(1999、8月)会員数240名強、発表演題28題、講演1題である。会の運営は会費と賛助会員の寄付による。年1回の総会と、年3回の会誌発行、その他各種セミナー開催などを行う。問題点としては運営資金と会員の確保である。特にHBO装置保有医療機関との関係を今後とも密にして行く。

【21世紀へ向けての人材の養成と従事者の資質の向上】

高気圧環境医学に関心を持つ同好の志の集まりとして、医師だけではなく、臨床工学技士、看護婦(士)、業者、ダイバーなどが一同に会し、お互いの連携を深め、学術的交流を高めることを会の主旨とし、研究として未完のものであってもこの会に持ち寄り会員同士で切磋琢磨して完成された成果として学会に発表するよう指導を高める。

【21世紀高気圧酸素治療及び減圧症対策の展望等】